

霞が関インターンシップ体験レポート

公共経営大学院 清水彬史

1. 実習スケジュールおよび概要

日程：2017年8月14日から8月25日までの2週間

受入先：厚生労働省老健局高齢者支援課

実習課題：平成30年度医療・介護報酬同時改定に向けた政策立案

主な実習内容：

- ・省内業務のサポート（臨時国会に向けた想定問答の検討、大臣出張に向けた資料作成など）
- ・審議会・委員会への陪席（第145回介護保険給付費分科会など）
- ・介護事業所への現地視察（有料老人ホーム、特養施設など）
- ・複数部署からの所管事項説明（高齢者支援課、介護保険計画課など）
- ・実習課題の最終発表に向けた準備

2. インターンシップを経験して

インターンシップに参加する以前、私には「所詮インターンシップだからそれほど難しい課題は来ないだろう」と高を括っていたところがありました。しかし、インターン初日に2週間のスケジュールを聞かされたとき、自分の認識の甘さに気づかされました。次々と依頼される省内業務への対応に加え、現地視察や委員会への陪席が連日続きます。実習課題は「報酬改定に関して自らテーマを定め、調査や資料の収集を行い、最終日に立案したアイデアを発表する」というものでしたが、そのためには、業務の間を縫って自分の時間を捻出しなければなりません。この多忙なスケジュールの中では、とても課題を進めることなどできないと当初は感じられました。

こうしたスケジュールが組まれたのは、多忙で知られる厚生労働省の職務を「できるだけリアルに」感じてほしいという指導官の考えからです。指導官の狙いどおり、この2週間は非常に多忙なものとなりましたが、同時に、数多くの刺激と学びの中で、一瞬で過ぎ去っていった2週間でもありました。その中でも特に考えさせられたのが「国家公務員として働くうえで何が求められるのか」ということです。この問いに対し、周囲の職員を観察し、また自らの職務体験を省察してみると、特に3つのものが重要なのではないかと考えました。

まず一つに事務処理能力です。前述のように多忙な環境では、複数の仕事を同時進行で進めていく必要があります。そのためには、それぞれの仕事の優先順位を見据えつつ、柔軟かつ計画的に行動していくことが大切です。インターンシップでは、指導官からの「優先順位」と「効率」を常に念頭に置くこととよいというアドバイスを頂き、各業務の締切日とにらめっこをしながら、なんとか2週間を乗り切ることができました。

二つ目にコミュニケーション能力です。厚生労働省は関係団体が非常に多く、職員は日々多くの外部関係者と接触します。公務員として重い責任を担う職員に向けられる視線は当然甘いものではなく、各方面からシビアな意見が寄せられます。関係団体の代表者が一同に集う社会保障審議会の光景は、さながら戦場のようにも見え、行政サイドのバックヤードは緊張感に包まれていました。国家公務員として、立場を超えたシビアな折衝や意見調整を円滑に進めていくためには、自らの立場や考えを明確に分かり

やすく相手に伝え、なおかつ相手の考えに理解を示していく、基礎的なコミュニケーション能力の熟達
が重要であるように感じられました。

三つ目に政策立案能力です。インターンシップ参加以前、国家公務員の主たる職務は政策立案だと考
えていたのですが、実際に職務に触れてみると、政策立案に充てられている時間はごくわずかで、多忙
な日々の職務の中でうまく時間を捻出しなければ不可能なものでした。どのようにして政策立案を行っ
ているのか周囲の職員に伺ってみると、一つの共通点として、みな「現場の人々との交流」を重視して
いることが浮かび上がりました。国会閉会中など比較的時間に余裕がある時期には、職員は現場への視
察を積極的に行っており、中には、休日にも現場事業所の友人と勉強会を行っているという職員もいら
っしゃいました。政策立案能力というと頭の回転の速さのようなものを勝手にイメージしていましたが、
今回の経験を経て、政策立案に必要なのは、より良い政策施行を目指して努力を惜しまない「熱意」と、
現場の声を忘れない「誠実さ」だと学ぶことができました。この二つこそ「政策立案能力」として、国
家公務員に欠かせないものなのかもしれません。

3. プログラムのおすすめポイント

今後のキャリアとして国家公務員を検討されている学生の方には、このインターンシッププログラム
を強くお勧めします。このプログラムのポイントは、2週間という長い時間の中でプロの職員と関わるこ
とができる点にあります。

学生としての立場をわきまえつつ真摯な姿勢で臨めば、親身に応えてくれる職員は少なくないはずで
す。普段自分が考えていることや研究していることについてプロの視点から意見をもらうことで、今後
の研究やキャリアプランを深く見直すことができます。2週間の中で出会うことのできる職員の数は少な
くないので、様々な職員のお話を伺うことができます。

また、受入先では、指導官などの職員が常に自分の行動を評価しています。自分の強みは何か、足り
ない部分はどこかなどの率直なフィードバックを求めることで、官庁訪問を含めた今後の就職活動に大
きく活かすことができるのではないのでしょうか。

2週間を経た個人的な感想として、やはり国家公務員は決して楽な仕事ではない、それどころか、かな
りシビアな仕事であると感じます。その多忙と重責を担うには、その人なりの「覚悟」が必要だと思
います。職員にも様々な方がいらっしゃいますが、特に活躍されている方の姿やお話には、そうした「覚
悟」を感じることができます。国家公務員を志望する上での自らの「覚悟」を試す場として、本インタ
ーンシッププログラムはなにより貴重な機会となると思いますので、積極的な参加をお勧めいたします。

(以上)